

第46回 三条市小中一貫教育推進委員会 会議録

1 開会宣言 令和8年2月12日(木) 午前10時00分

2 場 所 三条市役所栄庁舎大会議室

3 出席状況

(1) 出席委員 雲尾 周 委員長、
渡邊 伸明 委員、丸山 哲也 委員、田村 和弘 委員、
桐生 聡 委員、関 拓也 委員、高橋 雅博 委員、
須藤 剛司 委員、住吉 英明 委員、鮮良 靖宏 委員、
中村 正之 委員、倉田 孝英 委員、浅間 正直 委員、
村田 秀雄 委員、佐藤 裕之 委員、金子 佳奈子 委員 (19人)

(2) 欠席委員 高橋 喜一郎 副委員長、長 滋徳 委員、熊倉 文一 委員

(3) 事務局職員

教育長 高橋 誠一郎

教育部長 平岡 義規

教育総務課長 野水 裕晃

子育て支援課長 小林 正芳

学校教育課長 相田 覚

教育センター長 樋口 信英

統括指導主事 畑 宏幸、指導主事 秦野 真一、

指導主事 武石 和仁、指導主事 藤井 佳介、

特別指導主事 和田 薫

4 傍聴人 なし

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 開会のあいさつ
- (3) 報告
- (4) 議事
- (5) 各学園の小中一貫教育の成果と課題及び改善策
- (6) その他
- (7) 閉会のあいさつ
- (8) 閉会

6 会議の経過及び結果

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ

(雲尾委員長)

皆さん、おはようございます。昨日の新潟日報にただの郷学園の記事が、その下

には旭小の記事が載っていて、また中ほどには学校廃校舎の利活用のことが載っていました。どのような形であれ、子どもたちを、15歳まで三条市がどうやって育てるか、小中一貫教育推進の中で子どもたちをどう育てるかということになります。どうぞよろしく願いいたします。

(3) 報告

(事務局 畑)

出席者数の確認 出席者 19 人の委員の内、16 人の委員の出席。規定により半数以上の委員の出席がありますので、本会議は成立しております。

第 44 回小中一貫教育推進委員会検討内容 (概略)

・事務局 畑が説明(資料No.1、別紙)

(雲尾委員長)

ただいまの説明につきまして質問・意見等ありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

(4) 議事 共通アンケート結果について

(事務局 和田)

「令和 7 年度小中一貫教育アンケート (共通項目) の結果」についての説明

資料No. 2をご覧ください。(以下、資料に沿って説明)

〔説明後〕次年度以降も本年度と同様の形でアンケートを実施する方向を承認していただきたいと思えます。

(事務局 畑)

今ほどアンケート結果を報告させていただきました。三条市では、昨年度から地域をフィールドにしたキャリア教育を推進しています。しかし、今回の結果を見ますと、「地域とのつながり」に関する児童生徒の評価が低下している現状があります。

つきましては、「地域とのつながり」のアンケート結果の状況と、その要因について各学園から簡潔にお話しいただきまして、改善点並びにアイデア等をいただければ幸いです。

(雲尾委員長)

それでは、今ほどお話のあった「地域とのつながり」について各学園のアンケート結果とその要因をお話してください。

(三条嵐南学園 田村委員)

本学園でも、市と比較しても「地域とのつながり」についての肯定的回答の割合が低いという結果が出ました。嵐南学園の関わりとして、例えば職場体験であれば、当日だけでなく事前事後学習も含めて継続的な関わりをもっと行う必要があると考えています。私自身、新潟柳都中学校の実践に触れることがありまして、そこから学んだところによると、日和山小学校が、下町という地域の学習をしているというベースがある中で、地域活性化に 3 年間取り組んでいるという実践を聞くことができました。

1 年生は身近な人の困り事をビジネスとして解決するにはどうしたらよいか、2 年生はミッション型職場体験ということで、企業からミッションをもらって商品を考える、保育園に職場体験に行くようであれば、子どもが楽しい時間を過ごすにはどうしたらよいか、そういう形でミッション型の職場体験をして、事前事後学習を充実させています。3 年生は下町マルシェと言って下町本町商店街で歴史展示や商品開発、スタン

プラリーを企画するなど、そんなような形で継続的に関わっているという実践に触れることができました。今後、三条嵐南学園としても継続的に関われるような活動によって、その日1日の体験だけではなくて、事前事後学習の充実が必要だと考えております。

(一ノ木戸ポプラ学園 桐生委員)

当学園の結果を見ると、市の平均より少し高いです。当学園は、小学校から中学校にかけて、それぞれの学年で地域とのつながりを大事にした、キャリア教育とタイアップした授業をやっています。中学校は昨年来、新潟県の推進しているアントレプレナーシップ関係のもので、特に3年生は、都市課題に対しての模擬投資を行う発表会を行っています。これが成果を上げていると思うのですが、さらによりよくするために、小・中学校で9年間やってきたことがどんなふうにして成果として出るのかというのを大事にしたいと思います。今年度から中学校3年生の発表を小学生に見せることになりました。このようにして、継続性を小中一体となって見せるようなところが必要かと思っており、今後も続けていきたいと思っています。

(三条学園 関委員)

三条学園として、市全体の肯定的評価の数値と学園の肯定的評価の数値を比べますと、全体的に市全体の数値よりも高い数字を示しております。ただ、よく見ますと、特徴的な傾向があります。小学6年生と中学2年生がピンポイントで市全体より低い学年があります。学園には二つの小学校があり、一つの小学校で肯定的評価が低かったので、教頭同士で確認しても主な要因が見つけれませんでした。その学校では行事として地域の人と一緒にやる田植えの活動がなくなってしまい、地域の人と一緒にやる活動がなくなったと捉え、肯定的評価が低かったのではないかと考えています。また、中学2年生ですが、他の学園と同じように職場体験学習もやっていますが、低い数値でした。チームでやるような挨拶運動等を見た時に、2年生は振り返りの中で、もっとうちが、こんなふうになると良くなるんじゃないかという、一生懸命考えるコメントを書く生徒が多いです。このアンケートでもアンケート項目を素直に正対し、地域の人と一緒にやる活動をやってなかった、もっとやればよかった、というふうに真摯に受け止めている結果が、このように低くなった要因の一つだという推測もできます。ただ全体的に、職場体験も事前事後の活動も地域の人と一緒にやっている活動だという価値付けを中学校側としてうまくできなかったのも、我々の指導にも反省するところがあったと考えております。

(四つ葉学園 高橋委員)

全体的な傾向としまして、中学生は学年が上がるに従って肯定的評価が下がっているところがあります。中学生の取り組みとしては、1年生で職業講話、2年生で職場体験、3年生で上級学校訪問で三条市立大学等にも行かせていただいております。このアンケートを生徒がどういうふうにするかにもよりますが、地域の人と一緒にやる活動に積極的に参加しているかということ、活動を行ってはいけるけれど、積極的に参加しているかと考えた時に、ちょっとこちらの取組がまだ不十分だったと感じております。ただ行っているだけではなくて、そこでどれだけ生徒が積極的に活動できるかということの準備がまだ足りないと思っております。学園全体としては、地域の方を案内人として地域の防災について考える学習をやっており、こちらの方も地域の方と活動はしていますが、どちらかということ今までは地域の方が主体で案内をしていただいているということで、生徒たちは受け身になっているところがあると思います。ですので、来年以降、防災訓練では、災害に対してタイムラインなどを作成し、こちらか

ら積極的に活動できるようにやっていきたいと思っております。

(瑞穂学園 須藤委員)

瑞穂学園では、小学校では塞ノ神や三条マルシェへの参加をしております。中学校では、職場見学、職場体験、地域防災学習などを実施しております。ただ、生徒アンケートとしては、地域との関わりについての意識は非常に低いというアンケート結果が出ています。子どもたちはおそらく、具体的にどんな活動が地域の方と繋がって活動してるのかという視点が思い出せないのではないかと思います。アンケートを行う際には、こんな活動をやったよね、こういうことしたよね、こういうところで地域の方にお世話になった、ということを確認しながらアンケートを取ることで、恐らくアンケート結果は高まるのではないかと思います。また、今年度から中学校では、PTA主催でアントレプレナーシップの位置付けとして金融教育講演会をさせていただいております。これをしばらく続けようということで、次年度以降については、小学校高学年も招いてやるなど、交流を深めながらキャリア教育も推進していきたいと考えています。

(三条おおじま学園 住吉委員)

本学園の傾向としては、中学校で地域との関わりの活動参加の数値が低い傾向があります。地域との関わりは職場体験もありますし、地域の農家さんのところに伺ってもいますし、地域の食材を使った商品開発等も行っておりますが、子どもたちはやはり、授業の一つとして取り組んでいる意識があると思っております。キャリア教育も学習の中で地域の人たちの力を借りているという意識があると思っております。ですので、やはり具体的にどういうところで地域の人が入っているかということを確認することで気付けると思っております。どうしてもアンケートの中の「地域との関わり」とは、授業場面ではなく校外での活動のようなイメージが子どもにはあると思っております。それからもう一つ、本学園では「おおじまブラボーDay」という活動をしており、各小学校に中学生が行って地域の方と一緒に活動していますが、今年は残念ながら地域の方の参加が少なかったため、子どもは一緒に参加したという意識が高まらなかったと思っております。学校の教育活動にいかに関わりを巻き込んでいくのが課題だと思っております。

(さかえ学園 鮮良委員)

さかえ学園ではキャリア教育の充実ということで、小学4年生から中学3年生の活動の洗い出しを行いました。小学4年生では社会科見学、5年生では地域訪問、稲作体験、6年生が職業調べと、小学校それぞれが行っていますが、各担任の意識によってどのくらいやっているかが変わることが分かりました。また、中学1年生では栄地域を知るために、地域の方からお話を伺っております。2年生では職業体験、3年生の上級学校訪問ということで、それぞれ個別でやってる傾向が強いため、各アンケートもそれぞれによって出るということが分かりました。そこで、キャリア教育も自校化する中で、小・中学校学年ごとにそれを見える化してつながりが分かるように系統化する、そして、自分事として捉えていける取組を始めています。

(しただの郷学園 中村委員)

しただの郷学園の傾向としましても、やはり市全体と同じように低く、特に中学校で低い傾向があります。原因として、アンケートの中にある「積極的に」という言葉を子どもたちがどう捉えているかということについて、検討する必要があると思っております。参加はしているが、「積極的に参加したい」「興味がある」というふうに子ども達が捉えているかどうかというところが鍵なのかなと思います。我々ができることは、

やはり「地域に参加したい」「地域のことに興味がある」という子どもたちをどれだけ育てられるかということになると捉えています。課題はやはり実社会の実態に参加する活動をどれだけ我々が用意できるか、カリキュラムの中に入れられるかだと思っています。特に中学校ですと、地域のことを考える活動はしています。下田地域をどういうふうにしていくといいだろうか、下田地域をよりPRするにはどうするのかというところは考えてますが、それを実社会の実態、例えば下田地域で実際に活躍する人たちとの共同作業であったり、プレゼンをしたりという場面をもっと増やし、そこでやり取りをして意見をもらい、子どもたちが社会と触れ合う場面をどれだけ作っていただけるか、そういうフィールドに出していただけるかが課題と思っています。先日、この課題について学園運営協議会でも話題にし、CSの皆さんからも地域の学習材、人材についても御意見を引き続き頂くことになりました。それから地域おこし協力隊が下田地域にはいますので、そこも一つの学習材になるんだろうと思います。人材の発掘も今後の課題と語っておられます。もう一つ、小中の一貫カリキュラムの中で学習内容の重なる部分は、保護者のアンケートからも出ています。小学校でやったことが中学校でもやっている。例えば、漢学の里にこんな商品があればよいのではないかというのを小学校でやったが、中学校でもやっている。もちろん視点は変わっていますが、やはり同じようなことをやっているのではないかというような御指摘もありました。子どもたちも含めて、やはり小中一貫カリキュラムは、子どもたちとも共有しながら、9年間でこうなっていくんだというところを見ていくことも大事ではないかと考えています。そういう視点も含めて、カリキュラムの見直しがもう一つの課題と思っております。

(大崎学園 倉田委員)

大崎学園の方も「地域とのつながり」というところで低い数値となっております。大崎学園は、開校当時からPTCAボランティアということで、PTAだけじゃなく、コミュニティの地域の方とも一緒に活動し、花のプランター作業や大崎コミュニティでいろいろな催し物があるときに後期生がボランティアとして参加するというような活動を続けております。ただ、10月の学園運営協議会の中で、地域の方や先生と一緒に熟議をする場面があったのですが、その中で地域の方から、以前と比べて少し参加者が減ってしまったというような声がありました。また、地域の方から、開校当初は自分の子どもがいたから保護者という立場で参加しやすかったが、自分の子どもが卒業してしまうと少し参加しづらいとか、足が遠のいてしまったという話もありました。学園運営協議会で、いろいろ子どもたちともその点について話をし、やはり周知が足りないところがあるのかなと思います。生徒会を中心にして、参加してこういう楽しさや、こういう魅力があるなど働きかけていけないと思っております。保護者は自分の子どもがいれば参加しやすいと思っております。特に子どもが卒業してしまった方々は、そういう活動があるということは知っていてもなかなか参加しづらいことがあると感じていますので、いかに地域の方に呼びかけていくかということが課題だと思います。併せて、職員も開校当初と比べて入れ替わりが多いですので、職員もその開校当初の意義、どういう気持ちでこういう活動ができたのか、今どのように続いているか、というところを教職員に着実に伝えて、意識も変えていかなければいけないと考えております。

(雲尾委員長)

事務局、各学園の発表を受けて何かありますか。

(事務局 畑委員)

各学園からの発表、ありがとうございました。自学園で実態を捉えられて改善策につないでいただいていることに大変感謝いたします。今いただいた御意見を基にしながら、市としても取組と働きかけをしていきたいと思っております。三条市教育委員会として我々がこの低下している要因を考えた時に、アンケートの聞き方が問題なのではないかと感じています。児童生徒の「地域とのつながり」に関する質問の捉え方が要因の一つだと考えています。現在のアンケートは、資料のNo. 2の1ページにもある通り、平成30年度に改訂されています。それまではアンケートが11問あり、平成30年度に今の形の3問に少なくしました。以前は、具体例が（ ）で示されていました。例えば、「地域とのつながり」であれば、(地域の人と一緒にやる挨拶運動、地域行事、職場見学、町内活動、お祭り) などという例があったわけです。それが、感染禍もあり例示ができなくなりました。そうすると、今現在の子どもたちへの質問を見ると、学校内じゃなくて、学校外に限ったアンケートで「地域とのつながりに積極的に参加していたか」と捉えている子どもが多いと感じております。来年度からは例示を改めて示していきたいと思っております。例示に関しましては、こちらで検討させていただきまして、来年度の最初に提示できればと考えてます。アンケートについてはこちらで変更させていただきませんが、やはり大きな影響力はもたらすものは、各学園での取組、先生方の働きかけです。また、地域の方からの御協力もあって「地域とのつながり」になりますので、ぜひ地域の方の御協力をお願いしたいと思います。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。それでは、御質問、御意見等あればお願いします。

[なし]

それでは、いただいた御意見を踏まえまして、来年度に向けて改善をお願いします。また、次年度は、「地域とのつながり」のアンケート項目に例示をし、今年度と同じ形でアンケートを行っていくということで提案がありましたが、御了承いただけますでしょうか。御了承いただける方は拍手をお願いします。

[了承]

(雲尾委員長)

それでは、事務局で予定した案件は以上です。委員の皆様で協議すべきことがございましたらお願いします。

[なし]

以上で、協議を終了し、進行を事務局にお返しします。

(5) 各学園の小中一貫教育の成果と課題及び改善策

(武石指導主事)

各学園の小中一貫教育の取組について、資料No. 3の「小中一貫教育概要報告書」をもとに、今年度の取組や成果と課題及び改善策について御紹介いただきます。恐れ入りますが、各学園3分程度で御紹介ください。

(各学園委員) 三条嵐南学園から大崎学園まで紹介(3分×9学園)

(武石指導主事)

参加された委員の皆様から、全体を通してお気付きの点や連絡等がございましたら、お願いいたします。

[なし]

(6) その他

(武石指導主事)

せっかくの機会ですので、地域、保護者代表の方々から御感想等いただけたら幸いです。

(渡邊伸明委員)

平成25年から小中一貫教育が始まって12年ほどになると思います。これまでも小中学校の入学に向けた不安解消と様々な効果を得ていると思いますので、9年間のつながりを意識した学習に教職員が取り組んでいると思います。

そうした一方で、一ノ木戸ポプラ学園の発表にもありましたが、様々な取組を増やしていく中で、やはり教職員の負担感の増大が出てきているかと思います。6月の回でも話をさせていただきました。小中一貫教育の方の担当と校務分掌の話をしました。その後、夏、職場交渉でも組合員から話があったかと思います。

管理職の方から「次年度に向けてそこについて見直しをかけていく予定です」という前向きな回答をいただいた学校が複数あったという声が届いています。2月になりましたので、これから次年度の動きが出てくると思います。是非そういったところを意識して、考えていただければと思います。とても良い取り組みとなっておりますので、教職員が一つになって同じ方向を向いて動けるように、そして、それが子どもたちのためになると思いますので、よろしくをお願いします。

(丸山哲也委員)

私は、三条生まれ三条育ち、三条大好きな丸山です。

皆様の各学園の取組を出していただき、また三条市教委様の取組を聞かせていただき、本当に大きな成果を上げているんだな、見習うところがあると実感したところがあります。当校・園として紹介できることがあるとすればということで、今ほど負担があるのではないかというお話がありましたが、「会わない交流」もあるのかと思っております。

当校・園で実施しているのが、例えば、中学校二年生が修学旅行に広島に行きます。その際千羽鶴を持っていくのですが、その千羽鶴を小学校の子どもたちに折ってもらう。それで、小学校・中学校一緒に作ったその千羽鶴を修学旅行で広島に持っていくという取組を行っております。今年度からやっているところです。

2つ目として、中学生が技術科で、ARを使ったプログラミングを作っています。子どもたちが持っているクロームブックでカメラをかざすと実際にここにはない画像が浮かび上がってくるというものを中学生が技術を駆使して作っております。それを小学校に紹介しています。小学生は中学生がつくったARを自分のクロームブックで映し出し、実際には目の前にはないけれど画面を通して見えてくる体験をしています。中学生が子どもたちに興味深いARのプログラミングを作ることで、中学校への憧れ、中学生にとっては小学生のことを考える他者意識を醸成しながら学習できるという取組を行っているところです。ぜひ皆さんの何か参考になれば幸いです。

(浅間正直委員)

自治会長代表としてこの会議に参加させていただいています。各学園の皆様方はじめ、教育行政の皆さんが非常に一生懸命やっておられるというのはこの1年で感じました。

自治会長ということで、小中学校の運営協議会などにも参加させていただいています。どうしても、自治会長ということで年寄りが多いです。今ほども瑞穂学園さんのお話の中にもあったかと思いますが、どうしても参加する者がお年寄り、そして子どもの教育から離れているということを考えますと、なかなかお役に立てる機会というのは

ないと感じています。

先日の小学校の運営協議会に参加した時に、毎回学習参観がありますが、そこで感じたことです。子どもが少なくなってきたという恩恵かも分かりませんが、先生方と子どもたちの間の授業のやり方、会話が非常に活発で明るくていいなと思いました。その後の会議でも、皆さんが同じようなことを言っておられました。委員は年寄りが多いわけですが、算数の授業を見ていて、授業のやり方、子どもに教える時のかけ算などのやり方が自分たちが子どもの頃と全く違ってきているということで、あんなことだったら私たちもまた授業を受けたいというような話が結構ありました。

周りの人たちが、どんなふうに関心をもつか分かりませんが、授業参観などに、もう子どもの教育は終わったお年寄りが自由に参加できるような学習参加があってもよいのかなと思います。実際に、その委員会に出ておられた方が、自分もぜひこんな授業だったら参加してみたいというような話を何人もしておられました。そんなことを通じて、また地域と子どもたちがつながる機会になるのではないかなと思いました。私ももう80に手が届く年寄りですが、1年間こうやって参加させていただいても、なかなかどういう形にしたらお役に立てるのかなと思っていました。単に自治会長ということで参加するのではなく、子どもを育てている保護者の方、また地域のイベントで、非常に元気のよい若者がたくさんいます。こういう人からこのような会議に出てもらった方がお役に立てるのではないかなと思いました。私はこれから地域の行事、や子どもの見守りなどを通じてまた子どもと付き合っていきたいと思います。今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

(佐藤裕之委員)

森町小学校は、子どもの数が少なくなるということで、職員の数が今よりも減ると、校長先生からこの前話がありました。そこで、今年と同様の活動がもしかしたらできなくなるかもしれないという話がありましたが、先生の数でその活動ができないと決まるのであれば、もう少し先生の数を見直した方が逆によいのではないかなと思います。子ども達には楽しく学校生活をしてもらいたいですし、毎年同じことをやらせてあげたいと思っていますので、考えていただけたら嬉しいです。1年間ありがとうございました。

(金子佳奈子委員)

本日はこの会に参加させていただき、誠にありがとうございます。私も、会議が始まる前にアンケートを見て、ちょっと不安な気持ちになりつつお話を聞いていまして、冒頭のアンケートのところでは地域との繋がり、またキャリア教育についての各学園での熱量の違いを感じました。そういう不安な点もありましたが、最後の資料3の各学園の運営の活動報告等を聞いていると、先生たちにこれ以上の負担はかけられないというところもございます。また、私も運営協議会にも参加させていただいておりますが、そこも活用させていただき、もし地域との繋がりが薄いと感じておられるのであれば、地域との繋がりがどうやったらできるかや、キャリア教育もこういうところを探しているのだけどどこか引き受けてくれないかというような相談もして、話を進めていければ、運営協議会委員も充実した話が進むのではないかなと感じました。今年1年間通して、いろんなことを学ばせていただき、ありがとうございました。

(武石指導主事)

ありがとうございました。これで「その他」を終了し、閉会に移ります。

(7) 閉会のあいさつ

(武石指導主事)

閉会の御挨拶を三条市市教研副会長 田村 和弘 様より頂戴いたします。

(田村 副会長)

皆様大変お疲れ様でした。今日、私は、この会議に参加をさせていただいて、3点気付いたことがありました。

1点目は、地域への愛着についてであります。私の学校も低い数値が出ています。この地域への愛着と、それからやはり地域にどう関与しているのか、関わっていくかというところの視点が足りなかったと私自身も反省をしております。そういう意味で、地域と積極的に継続的に関わるような場所、小学校との関わりもですが、カリキュラムの視点から、特に総合的な学習の時間を確保して、地域学習に取り組んでいかなければならないと感じた次第であります。

また、キャリア教育というところ職業的なところがクローズアップされますが、生き方の教育でありますので、地域人として生きるというところをもう少し、強調していかなければいけないと反省した次第であります。

2点目ですが、やはり「学び」ということで、振り返りが私自身の学園でも足りない部分があると思います。来年度は、三条嵐南学園は振り返りの部分で力を入れたいと考えており、自己有用感を高めるには、周りからのフィードバック、共に活動した地域からのフィードバックが大切です。最後の振り返りのところを地域の方と一緒にやっているかというところ、そこは少し弱いところがあると感じましたので、地域の皆様との振り返りや、もちろん子どもたち同士の振り返りやフィードバック、教師からのフィードバックなどを大事にしていかなければいけないと感じた次第であります。

3点目でございますが、そのために、産官学で、行政の皆様、そして学校、そして地域の皆様といろいろ関わりながら教育活動をしていくところが非常に大事だと感じた次第であります。この1年間、皆様からたくさんの学びをいただいたことに感謝いたします。皆様から1年間御意見をいただいて、小中一貫教育が、さらにまた来年度推進するということを私は確信しました。

(武石指導主事)

大変ありがとうございました。

(8) 閉会

(武石指導主事)

雲尾委員長 並びに、各委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。長時間に渡りまして御参加いただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。併せて、本年度全3回の推進委員会を無事に開催することができましたことに感謝申し上げます。

皆様の委員としての任期は、令和8年12月までとなっております。来年度も引き続き委員をお願いいたします。年度が変わり、異動等がある場合は、後任の方から委員を引き継いでいただくこととなります。その際は、引継ぎをよろしくをお願いいたします。

以上をもちまして「第46回三条市小中一貫教育推進委員会」を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

(閉会 午前11時22分)